

平成22年度 定期作況報告

(9月20日)

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
中央農業試験場

水稻の部

水田農業G(岩見沢市)

I 気象概況

8月下旬：平均気温は平年より3.7℃高く、降水量は平年の192%、日照時間は平年の100%であり、高温、多雨に経過した。

9月上旬：平均気温は平年より2.8℃高く、降水量は平年の187%、日照時間は平年の107%であり、高温、多雨に経過した。

9月中旬：平均気温は平年より2.2℃高く、降水量は平年の35%、日照時間は平年の135%であり、高温、少雨、多照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より2.9℃高く、降水量は平年の144%、日照時間は平年の114%であり、高温、多雨、多照に経過した。

8月下旬～9月中旬気象表

項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	28.3	24.4	3.9	26.9	23.6	3.3	24.9	22.1	2.8	26.7	23.4	3.3
最低気温(℃)	19.9	16.4	3.5	17.5	15.1	2.4	14.7	13.1	1.6	17.4	14.9	2.5
平均気温(℃)	24.1	20.4	3.7	22.2	19.4	2.8	19.8	17.6	2.2	22.1	19.2	2.9
降水量(mm)	104.5	54.3	50.2	74.5	39.8	34.7	14.0	40.2	△ 26.2	193.0	134.3	58.7
日照時間(hr)	54.4	54.5	△ 0.1	55.5	52.0	3.5	73.0	54.1	18.9	182.9	160.6	22.3

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成12～21年の10ヶ年平均値を農試が算出し、使用。

平均気温は、各日最高・最低気温の平均値を用いた。

表中の気温は期間内の平均を示し、降水量と日照時間は期間内の積算値を示した。

II 作 況

5月20日 やや不良

事由:播種は平年より1日遅い4月19日に行った。播種後4月下旬は低温に経過し、出芽まで7日を要した。

移植時における苗は、茎数と葉数が「きらら397」、「ほしのゆめ」とともにほぼ平年並であった。また、草丈は「きらら397」では平年より0.9cm短く、「ほしのゆめ」では平年より0.4cm長かった。しかし、乾物重はそれぞれ平年比91%、92%で、苗の充実度がやや劣った。

以上により、5月20日時点の作況は、やや不良である。

6月20日 平年並

事由:移植後5月下旬は低温に経過し、活着および移植後の生育は緩慢であったが、6月中旬は高温に推移したため、生育の遅れを取り戻した。すなわち、6月20日における草丈は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ99%、91%、茎数は89%、101%と、いずれも平年並から平年をやや下回ったが、主稈葉数は両品種とも平年並よりやや多かった。

以上により、6月20日時点の作況は平年並である。

7月20日作況 やや不良

事由:1ヶ月を通じ高温に推移したため生育は大きく進んだ。すなわち、幼穂形成期は、「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ平年より3日、4日早く、止葉始はそれぞれ6日、8日早かった。7月20日における草丈は、下位節間が伸長していることもあり「きらら397」で平年の121%、「ほしのゆめ」で平年の117%と平年を大きく上回った。主稈葉数は「きらら397」、「ほしのゆめ」とともにほぼ平年並であった。一方、茎数は生育が進み分けつ発生期間が短くなったため、「きらら397」で平年の72%、「ほしのゆめ」で平年の78%と、平年を大きく下回った。

以上により、7月20日時点の作況は、やや不良である。

8月20日作況 やや不良

事由:1ヶ月を通じ高温に推移したため生育は大きく進んだ。すなわち、出穂期は、「きらら397」、「ほしのゆめ」でそれぞれ7日、8日早かった。稈長は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ101%、97%、穂長は102%、98%といずれも平年並であった。一方、穂数は「きらら397」で平年の78%、「ほしのゆめ」で平年の81%で平年を大きく下回った。

以上により、8月20日時点の作況は、やや不良である。

9月20日作況 不良

事由:成熟期は「きらら397」で9月17日、「ほしのゆめ」で9月11日であり、平年に比べそれぞれ4日、8日早かった。一穂籾数は平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ100%、106%と平年並からやや多いが、 m^2 当たりの籾数はそれぞれ78%、85%と平年を大きく下回った。稔実歩合は「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ平年より3.6、2.9ポイント高く、登熟歩合はそれぞれ0.8、0.9ポイント高かった。結果として m^2 当たり登熟籾数は「きらら397」で平年の79%、「ほしのゆめ」で86%と、平年を大きく下回った。

以上により、9月20日時点の作況は、不良である。

品種名 項目 \ 年次		きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗(参考)		ゆめぴりか 中苗(参考)
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	(前4ヶ年)	本年
播種期	(月.日)	4.19	4.18	1	4.19	4.18	1	4.19	4.18	4.19
移植期	(月.日)	5.21	5.20	1	5.21	5.21	0	5.21	5.21	5.21
幼穂形成期	(月.日)	7.04	7.07	△ 3	7.02	7.06	△ 4	7.02	7.05	7.03
止葉始	(月.日)	7.16	7.22	△ 6	7.13	7.21	△ 8	7.12	7.20	7.14
出穂期	(月.日)	7.28	8.04	△ 7	7.27	8.04	△ 8	7.25	8.04	7.27
成熟期	(月.日)	9.17	9.21	△ 4	9.11	9.19	△ 8	9.13	9.22	9.12
穂揃日数	(日)	6.0	5.6	0.4	6.0	6.0	0.0	5.0	6.5	6.0
出穂まで日数	(日)	100	108	△ 8	99	108	△ 9	97	108	99
生育日数	(日)	151	156	△ 5	145	154	△ 9	147	157	146
移植時地上部乾物重(g/100本)		1.82	2.00	△ 0.18	1.96	2.12	△ 0.16	1.60	2.31	1.62
草丈 (cm)	移植時	8.7	9.6	△ 0.9	10.4	10.0	0.4	8.4	10.2	8.4
	6月20日	23.2	23.5	△ 0.3	22.5	24.8	△ 2.3	24.8	25.1	25.2
	7月20日	68.4	56.7	11.7	69.4	59.5	9.9	78.0	63.3	78.7
茎数 (移植時:本/個体) (その他:本/m ²)	移植時	1.0	1.1	△ 0.1	1.1	1.1	0.0	1.0	1.0	1.0
	6月20日	320	359	△ 39	363	359	4	315	315	320
	7月20日	638	891	△ 253	733	938	△ 205	685	842	725
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.3	3.2	0.1	3.2	3.1	0.1	3.1	3.2	3.0
	6月20日	7.4	6.9	0.5	6.8	6.5	0.3	7.1	6.7	7.2
	7月20日	10.9	10.6	0.3	10.1	10	0.1	10.1	10.4	10.4
	止葉	10.9	11.1	△ 0.2	10.1	10.3	△ 0.2	10.1	10.5	10.4
稈長	(cm)	64.6	64.2	0.4	65.6	67.6	△ 2.0	67.5	69.5	68.1
穂長	(cm)	16.6	16.3	0.3	15.1	15.4	△ 0.3	16.0	16.7	18.2
穂数	(本/m ²)	588	752	△ 164	660	817	△ 157	638	733	640
一穂粒数	(粒)	46.8	47.0	△ 0.2	44.6	42.1	2.5	56.5	54.2	41.5
m ² 当粒数	(百粒)	275	353	△ 78	294	344	△ 50	360	397	266
稔実歩合	(%)	90.4	86.8	3.6	91.1	88.2	2.9	87.9	83.0	90.2
登熟歩合	(%)	78.8	78.0	0.8	79.6	78.7	0.9	75.6	76.3	76.2
籾摺歩合	(%)		75.2			69.2			74.7	
屑米歩合	(%)		10.4			19.7			11.4	
千粒重	(g)		22.4			21.2			21.1	
わら重	(kg/a)		65.8			70.3			79.7	
精籾重	(kg/a)		75.4			72.5			74.3	
精玄米重	(kg/a)		56.7			50.2			55.5	
収量平年対比	(%)		100			100		-	100	-
検査等級			2上	-		2上	-		2上	

注1)「きらら397」の平年値は前7ヶ年中、平成20年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2)「ほしのゆめ」の平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注3)平成18年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注4)平成21年より「ゆめぴりか」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注5)耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=180cc/箱

栽 植 密 : 30×13.3cm 25株/m² 4本植え

移植方法 : 手植え

反 復 : 2

注6)刈り取り面積は一区3.6m²、精籾重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

畑作の部

作物G(長沼町)

I 気象概況

8月下旬:平均気温は平年より3.8℃高く、降水量は平年の149%、日照時間は平年の111%であり、高温、多雨、多照に経過した。

9月上旬:平均気温は平年より3.3℃高く、降水量は平年の87%、日照時間は平年の121%であり、高温、少雨、多照に経過した。

9月中旬:平均気温は平年より2.3℃高く、降水量は平年の30%、日照時間は平年の136%であり、高温、少雨、多照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より3.2℃高く、降水量は平年の93%、日照時間は平年の123%であり、高温、多照に経過した。

8月下旬～9月中旬気象表

項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	28.5	24.5	4.0	27.5	23.7	3.8	25.4	22.3	3.1	27.2	23.5	3.7
最低気温(℃)	19.5	15.7	3.8	17.3	14.4	2.9	14.3	12.0	2.3	17.1	14.1	3.0
平均気温(℃)	23.5	19.7	3.8	22.0	18.7	3.3	19.3	17.0	2.3	21.7	18.5	3.2
降水量(mm)	79.5	53.2	26.3	51.5	59.5	△8.0	12.5	41.2	△28.7	143.5	153.9	△10.4
降水日数(日)	6.0	3.8	2.2	3.0	3.7	△0.7	2.0	3.3	△1.3	11.0	10.8	0.2
日照時間(hr)	55.4	49.9	5.5	61.0	50.5	10.5	70.3	51.6	18.7	186.7	152.0	34.7

注1) 気象データはマメダス中央農試本場。欠測値および明らかな異常値はアメダス長沼で補正。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。中央農試で算出。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) △は減を示す。

II 作況

1. 秋まき小麦(平成22年播種)

9月20日作況 平年並

事由：播種期は9月17日で平年値より3日遅いが、安定した越冬のために必要な生育の確保には問題が無い播種時期である。

以上により、現在の作況は平年並である。

項目 \ 年次	ホクシン			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (H21.月.日)	9.17	9.14	3	9.17	9.14	3
出芽期 (H21.月.日)		9.20			9.20	
出穂期 (H22.月.日)		6.08			6.08	
成熟期 (H22.月.日)		7.22			7.22	
冬損程度 (0:無～5:甚)		1.6			1.6	
草丈 H21.10.20		23.9			23.9	
H22.5.20		52.2			52.2	
(cm) H22.6.20		103.4			103.4	
茎数 H21.10.20		980			980	
越冬前(11月)		1462			1462	
越冬後(4月)		1617			1617	
H22.5.20		1225			1225	
(本/m ²) H22.6.20		726			726	
成熟期に 稈長 (cm)		99.3			99.3	
おける 穂長 (cm)		8.8			8.8	
穂数 (本/m ²)		667			667	
倒伏程度 (0:無～5:甚)		2.3			2.3	
子実重 (kg/10a)		589			589	
リットル重 (g)		796			796	
千粒重 (g)		40.5			40.5	
品質 (等級)						
子実重平年対比 (%)		100			100	

注1) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、平成19年(最豊)を除く5か年平均(収穫年度)。

注2) △は平年より早、短、少を表す。(※以降の作物においても同様)

注3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

3. ばれいしょ

5月20日作況 平年並

事由：本年は根雪終が平年より1日遅い4月3日（融雪剤無散布）で、その後4月中～下旬は低温、多雨であった。植付期は平年より5日早い4月27日であったが、5月20日現在で萌芽期に至っていない。

以上により、現在の作況は平年並である。

6月20日作況 平年並

事由：植付期は平年より5日早く、萌芽期は平年並であった。その後、好天に恵まれ生育は順調で、6月20日時点での茎数は平年より少ないものの、茎長は平年より3cm上回った。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況 平年並

事由：6月中旬以降高温に推移し、開花始は平年より1日早かった。茎長は平年より極めて長く、茎数は平年並である。特に目立った病害虫の発生は認められない。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況 やや良

事由：8月20日現在で枯凋期には達していない。上いも数はほぼ平年並、上いも平均一個重は平年より8.7g、上いも重は310kg上回っており、でん粉価は低い。

以上により、現在の作況はやや良である。

9月20日作況 平年並

事由：枯凋期は平年より7日遅れた。1株あたりの上いも数は平年よりやや少ないものの、塊茎肥大期間が十分に確保され、降水量が多かったため平均一個重、上いも重、中以上いも重は大きく上回った。一方、夜温が高く、呼吸量が多かったことからでん粉の蓄積は緩慢で、でん粉価は極めて低かった。また、中心空洞の発生頻度が平年より高かった。

以上により、本年の作況は平年並である。

品種名 項目 \ 年次		男爵薯		
		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	4.27	5.02	△ 5
萌芽期	(月.日)	5.26	5.26	0
開花始	(月.日)	6.22	6.23	△ 1
枯凋期	(月.日)	8.28	8.21	7
茎長	6月20日	37	34	3
(cm)	7月20日	64	43	21
茎数	6月20日	3.6	4.8	△ 1.2
(本/株)	7月20日	4.3	4.7	△ 0.4
8月20日における				
上いも数	(個/株)	12.5	13.0	△ 0.5
上いも平均一個重(g)		89.7	81.0	8.7
上いも重	(kg/10a)	4971	4661	310
でん粉価	(%)	13.8	14.9	△ 1.1
枯凋期における				
上いも数	(個/株)	12.3	13.1	△ 0.8
上いも平均一個重(g)		95.9	81.0	14.9
上いも重	(kg/10a)	5242	4681	561
中以上いも重(kg/10a)		4549	3798	751
でん粉価	(%)	12.9	15.0	△ 2.1
上いも重平年対比 (%)		112	100	12
中以上いも重 " (%)		120	100	20
でん粉価 " (%)		86	100	△ 14

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最凶)、19年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は21g/個以上、「中以上いも」は61g/個以上。

4. 大豆

6月20日作況 やや良

事由：播種期は平年より1日早い5月21日であり、出芽期は平年並から1日遅かった。播種後に適度な降雨があり、出芽は良好であった。出芽期以降、6月中旬が高温に経過し、現在の主茎長と主茎節数は平年を上回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

7月20日作況 やや良

事由：6月中旬以降高温に経過したため、生育の進みは著しく早く、「ツルムスメ」、「トヨムスメ」、「スズマル」の開花期は平年より5日～7日早く、「ユウヅル」も20日現在開花始に達している。主茎長が平年より10cm以上長く、主茎節数は平年を上回っている。分枝数は「スズマル」は平年より多いが、「ツルムスメ」、「トヨムスメ」は平年並、「ユウヅル」は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

8月20日作況 やや良

事由：7月以降高温に経過したため、生育の進みは著しく早く、「ユウヅル」の開花期は平年より9日早かった。主茎長は「ツルムスメ」、「ユウヅル」、「トヨムスメ」は平年よりやや長く、「スズマル」は平年並であった。主茎節数は平年よりやや少なかった。分枝数はほぼ平年並であった。着莢数は、「ユウヅル」、「トヨムスメ」は平年より多く、「ツルムスメ」、「スズマル」は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

9月20日作況 やや良

事由：8月下旬以降も高温に経過し、適度な降雨と日照に恵まれ、期間中の生育は順調であった。主茎長は「ツルムスメ」、「ユウヅル」、「トヨムスメ」が平年よりやや長く、「スズマル」は平年並であった。主茎節数と分枝数は平年よりやや少なかった。着莢数は「ツルムスメ」では平年より少なく、その他の品種では平年より多かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

品種名		ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル		
項目	年次	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.21	5.22	△ 1	5.21	5.22	△ 1	5.21	5.22	△ 1	5.21	5.22	△ 1
出芽期	(月.日)	6.03	6.03	0	6.03	6.02	1	6.03	6.02	1	6.02	6.02	0
開花期	(月.日)	7.14	7.20	△ 6	7.22	7.31	△ 9	7.13	7.18	△ 5	7.19	7.26	△ 7
成熟期	(月.日)		9.30			10.15			9.26			9.28	
主茎長 (cm)	6月20日	11.5	9.3	2.2	11.4	9.1	2.3	12.8	10.5	2.3	8.8	7.8	1.0
	7月20日	60.1	45.4	14.7	59.2	41.0	18.2	61.5	48.7	12.8	55.6	37.5	18.1
	8月20日	61.2	58.7	2.5	89.3	85.3	4.0	64.3	60.7	3.6	68.4	69.1	△ 0.7
	9月20日	62.4	58.2	4.2	90.7	85.0	5.7	65.9	61.1	4.8	68.7	69.6	△ 0.9
	成熟期		57.8			84.3			60.8			70.5	
主茎節数 (節)	6月20日	3.6	3.4	0.2	3.7	3.2	0.5	3.4	3.1	0.3	3.9	3.3	0.6
	7月20日	12.2	11.2	1.0	13.2	10.7	2.5	10.0	9.5	0.5	13.2	10.9	2.3
	8月20日	11.9	12.9	△ 1.0	15.5	16.1	△ 0.6	10.0	10.3	△ 0.3	13.7	14.7	△ 1.0
	9月20日	11.9	12.5	△ 0.6	15.4	15.6	△ 0.2	10.2	10.3	△ 0.1	13.2	14.2	△ 1.0
	成熟期		12.4			15.9			10.3			14.1	
分枝数 (本/株)	7月20日	6.5	6.1	0.4	2.7	3.9	△ 1.2	5.6	5.5	0.1	9.7	7.6	2.1
	8月20日	6.6	6.9	△ 0.3	4.6	4.7	△ 0.1	6.7	6.1	0.6	11.0	11.6	△ 0.6
	9月20日	6.6	7.2	△ 0.6	4.3	4.5	△ 0.2	6.1	6.6	△ 0.5	10.2	11.4	△ 1.2
	成熟期		7.2			3.9			6.4			10.4	
着莢数 (莢/株)	8月20日	52.7	55.5	△ 2.8	56.1	40.5	15.6	87.9	67.0	20.9	138.1	147.2	△ 9.1
	9月20日	46.0	52.4	△ 6.4	63.6	51.5	12.1	71.9	62.2	9.7	124.4	122.0	2.4
	成熟期		52.6			52.2			62.4			121.7	
一莢内粒数			1.74			1.75			1.78			2.37	
子実重 (kg/10a)			344			328			365			322	
百粒重 (g)			46.7			45.0			39.7			14.2	
屑粒率 (%)			2.9			4.4			2.1			2.0	
品質 (等級)			3上			3下			3中			2中	
子実重平年対比 (%)			100			100			100			100	

注1) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%に補正後の数値

5. 小豆

6月20日作況 平年並

事由：播種期は平年より2日早い5月24日であったが、5月下旬の気温が低めに経過したことと、播種後の降雨で土壌表面がクラスト化した影響により、出芽期は平年より3日遅くなった。出芽期後は概ね好天に恵まれており、現在のところ、主茎長が平年よりやや短い主茎節数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況 良

事由：6月下旬以降、高温に経過し、適度な降雨にも恵まれたため、生育は大きく進んだ。開花期が平年より7日早く、主茎長、主茎節数は平年を大きく上回り、分枝数も平年より多い。

以上により、現在の作況は良である。

8月20日作況 平年並

事由：前節以降、引き続き高温に経過したが多雨、寡照に経過した。また、7月27日から29日にかけての風雨により倒伏が発生した。この結果、前節で平年を大きく上回った主茎長、主茎節数および分枝数はほぼ平年並に留まった。着莢数は8月の平年値と比較すると少なく、本年の莢の伸育が平年より早いことを考慮して成熟期の着莢数と比較しても概ね平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

9月20日作況 不良

事由：成熟期は平年より10日早い8月29日であった。成熟期の主茎長と主茎節数は平年並であり、分枝数がやや多かった。莢数は概ね平年並であったが、一莢内粒数は少なく、さらに、高温登熟により小粒化し、百粒重は平年より約20%軽かった。この結果、子実重は平年比79%と低収であった。屑粒率は平年より低かった。

以上により、現在の作況は不良である。

品種名		エリモシヨウズ		
項目	年次	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.24	5.26	△2
出芽期	(月.日)	6.13	6.10	3
開花期	(月.日)	7.18	7.25	△7
成熟期	(月.日)	8.29	9.08	△10
主茎長 (cm)	6月20日	3.5	4.0	△0.5
	7月20日	35.1	20.5	14.6
	8月20日	70.4	69.2	1.2
	成熟期	69.6	70.6	△1.0
主茎節数 (節)	6月20日	1.8	1.6	0.2
	7月20日	10.7	8.9	1.8
	8月20日	13.7	13.2	0.5
	成熟期	13.5	13.3	0.2
分枝数 (本/株)	7月20日	4.9	4.0	0.9
	8月20日	4.7	4.9	△0.2
	成熟期	4.7	4.3	0.4
着莢数 (莢/株)	8月20日	52.6	58.3	△5.7
	成熟期	52.6	54.7	△2.1
一莢内粒数		5.58	5.92	△0.34
子実重	(kg/10a)	257	326	△69
百粒重	(g)	10.5	13.0	△2.5
屑粒率	(%)	1.8	2.8	△1.0
品質	(等級)		3上	
子実重平年対比	(%)	79	100	△21

注1) 平年値は前7カ年中、平成15年(最豊)、平成18年(最凶)を除く5カ年平均。

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%に補正後の数値。